

山行番 NO. 1683
日時 2016.04.09 (土) 晴
山域 ハツ・赤岳 (2899m) 真教寺尾根
コース・タイム 下土狩発4:30-サンメドウスキー場登山口発7:00-尾根に乗る7:40-牛首山9:03-扇山-最初の鎖場11:28-第二の岩場11:55-キレット小屋分岐12:04-竜頭峰-赤岳頂上12:25~30-第一の鎖場下13:30~40-登山口16:12
標高差 上り=サンメドウスキー場登山口約1670m~赤岳2899m=約1299m
下り= "
参加者 後藤隆徳 (69歳2ヶ月)、勝又陽、小松 (2500mまで)

厳しい赤岳の上級ルートを往復

中央道を葦崎ICまで来ると、諏訪ICから先が事故通行止めだった。渋滞で30分の時間も勿体ない。本来、天狗岳西尾根の予定だったが、急遽、赤岳・真教寺尾根に変更し長坂ICで降りた。今回の計画は元々、真教寺尾根だった。ただ、久しぶりに小松が参加になったので、少し楽な天狗岳にした。急な変更だったが、特に違和感はなかった。

サンメドウスキー場でトイレを借りた。このトイレは無人で、駐車場にポツンとあるが、便器はヒーターが入り、温水が出る。更衣室もあり有難い。少し上って登山口着。道路脇に駐車。この時点で他車はなかった。

7時丁度発。天気は高曇りで冷たい風が吹き、気温は低かった。林道は凍っていた。大門沢を渡り40分で真教寺尾根に乗る。尾根は例によって、ガジガジの氷道。早めにアイゼンを履いた。天気は次第にイイ感じになって来た。

2時間で牛首山着。三等三角点があった。樹間に赤岳が望まれた。ここから仰ぐ真教寺尾根は、何処を上ればイイのか分からない程、厳しい顔をしている。雪は少ない印象だった。さしずめ5月連休の頃の感じか。例年の雪量だと、この時期ここは厳しいかも知れない。少し下って、扇山着だが標識はなかった。

2316m峰先から急な上りが始まる。苦しい上りが続いた。今朝は4:30家を出た。起床は3時だった。やや寝不足の影響があった。標高差が1300m以上の日帰り登山はキツイ。



同じ日帰りでも、家から日帰りと、現地泊日帰りでは相当違う。山レコなどの記録では、そこまで分からない。急な雪壁を上ると、第一の鎖場だった。50m程の鎖は、下三分の一が出ていた。右側をグングン上る。去年の秋もそうだったが、太い鎖は掴み難い。従って、女子は大変。見下ろすと、牛首山が大きかった。半年ぶりの山で、足慣らしの小松は、この下辺りで下山したようだ。



バックが牛首山

更に上り、第二の鎖場に入る。右手上部に赤岳山荘が見えるが、なかなか近づかない。左手にキレット小屋分岐が見えた。第三の鎖場を上る。上から3名降りて来た。男性2名、女性1名のパーティーだった。

背の小さい方がいたので、子供??と思ったら女子だった。下山時間が早いので聞いたら、今朝6時に上ったという。我々より1時間早かった訳。昨夜は近くに宿泊したという。このパーティーと下山時、扇山で追いつき会話した。

東京の「鵬翔山岳会」といった。「鵬翔山岳会」は昔、谷川岳等で一時代築いた山岳会。ただ現在、動けるのは10名程度らしい。栄光の山岳会も、高齢化・会員減・ハイキング化が顕著の様だ。我が静岡県連も、御多分にもれず同様。会員数は650名とまあまあだが、ピッケル・アイゼン・ザイルを使う、いわゆるアルパインは衰退している。

かくゆう私も既に69歳2ヶ月。日本アルプスのほとんどの雪山は上って来たが、あとどの程度厳しい山が出来るか確信はない。年配の方がいたので御歳を聞いたら、私より若い「62歳」だった。

キレット分岐から、竜頭峰に上る。赤岳が指呼の間だった。登山者が1名上っていた。竜頭峰から鎖場を少し下り、やがて赤岳頂上着。今日は珍しく誰もいなかった。5時間半掛かった。コースタイムは、5時間20分。県界尾根は5時間だから、真教寺尾根は、一番時間が掛かる。

厳しく苦しい山だった。今回は、ひょっとして上れないか??が頭を過った。現在の私は、標高差1300m以上で、長泉から日帰りは厳しい。この歳では、前泊が理想だろう。やがて勝又到着。彼は60歳だが元気イッパイ。このところイイ山に上っている。今、山が一番面白い時期かも知れない。頼もしい限りである。



権現岳



真教寺尾根上部



長居は無用。記念撮影を済ませ下山。気が張っているうち難所を下りたい。一瞬、県界尾根を下ろうかと思った。しかし、過去の事故反省は、「厳しいルートは、上っていなかったら下るな」があった。当たり前だが、往復登山が一番安全なのだ。

鎖場はガンガン下った。鎖を「斜（はず）」に持ち、足場にシッカリ立ち下る。要領が悪い輩は遅い。全ての岩場を終わり、森林限界で遅い昼食。疲れ切って、**食物が喉を通らなかった**。こんな時、一本の**ビア**が救ってくれた。イイ、ワルイでなく、養分補給が必要だった。今日は運転ナシだから、ま、許して・・・。



赤岳頂上



竜頭峰下

下りは長かった。しかも、ちょっと油断すると、ロシアン・ルーレットの「踏み抜き」が待っていた。大きい「墓穴」は腿まで潜り、それを脱出するのに苦労した。

前述の扇山で鵬翔山岳会に再会。しばし歓談。我々は先を急いだ。3パーティー上って来た。2パーティーは上を目指したのだろうか。1パーティーは、扇山下でテント準備だった。この方に「雪は、どうでしたか」と聞かれたが、雪の量か質か分からなかった。

今朝、アイゼンを履いた下で、アイゼンを脱いだ。アベック（カップル・古い！！）がいたが、上で見なかったなので、途中までの往復か??

スキー場上で左折し、大門沢を渡り下山。小松は15時ころ着いたらしい。結局、今日の山は、上り5時間半、下り3時間半だった。長く厳しく根気がある山だった。足・体・心は、メロメロ・ヨロヨロ・ヘタヘタだった。しかし、超完全燃焼!!!

最近、これ程「燃えた切った山」はなかった。同時に「歳を感じた」山だった。私も近い将来、「ピッケルを置く時」が来るのだろうか。

おわり



駐車場